

世界への招待状

昨年、私たちの「世界」が変わりました。
私たちは、
「自分を変えたい」「国際交流をしたい」
それぞれの思いを胸に
世界各国に派遣されました。

そこで、様々な「世界」に出会いました。

この事業は、「世界」への窓口です。

ぜひ、あなたの「世界」が変わる
この事業のことを知ってください。

From : JAPAN
To : WORLD

TW 555

Gate :
315

Date : 19/9/6

Seat :



AIR TICKET



内閣府青年国際交流事業
(航空機による青年海外派遣)
平成30年度参加青年一同

平成30年度報告会 プログラム

本日はご来場ありがとうございます。
日程は以下の通りとなっております。会場への入退場は自由です。

時間	内容	会場
13:00~13:15	開会式	102
13:15~13:25	報告会概要説明	102
13:25~13:40	内閣府青年国際交流事業説明	102
13:45~14:05	参加青年による事業報告（第1部）	102
	事業の特徴や魅力をご紹介します。	
14:05~14:40	参加青年による事業報告（第2部）	102
	訪問国での活動についてをご紹介します。	
	休憩	
14:50~15:10	参加青年による事業報告（第3部）	102
	この事業を通して得た学び、成長や今後の活動について発表します。	
15:10~15:25	2019年度内閣府青年国際交流事業の募集について	102
	会場移動	
15:30~16:30	各派遣団等ブース展示	101
	訪問国の紹介や記念品を展示をしています。	
16:30~16:45	閉会式	101

ブース展示について

ブース展示では、以下の展示を行っています。

・**各派遣団ブース**
各派遣団が、訪問国の紹介と現地から持ち帰った記念品の展示を行っています。団員が待機していますので、ぜひ話しかけてみてください！

・**内閣府ブース**
内閣府職員が皆さんからのご質問にお答えします。

・**その他の事業ブース**
「航空機による青年海外派遣」事業以外の参加青年と交流することができます。

ブース展示・イベント

以下のイベントを開催しております。ぜひご参加ください。

座談会

全派遣団の参加青年の話が一度に聞ける、座談会。ワイワイ盛り上がりながら参加青年と話してみませんか？
※時間・場所は別途お知らせします。

モザイクアート

参加者の皆さんに、受付で配布する付箋を貼り付けていただくことで完成するモザイクアート！ぜひここで今日の記念撮影をどうぞ。

ご来場の皆さまへ

報告会実行委員長の長谷川友也です。
本日はお忙しい中、ご来場いただき誠にありがとうございます。

ちょうど1年前、僕もこの報告会に参加し、まさに今あなたが座っているところで参加青年の話聞いていました。その時の衝撃は今でも忘れられません。

そこでは、僕と同年代の参加青年たちが、舞台上で、大勢の聴衆を前に、堂々と自分の意見を述べていました。この事業から何を学び、それを今後どう生かしていきたいか。どんな将来像を描いているか。彼らは、これまでの経験と、自分の能力に裏付けられた自信を身にまとい、しっかりと自分の意思を持って、その場に立っていました。
その姿に、僕は憧れを覚えました。

その報告会をきっかけにこの事業への応募を決めた僕は、選考試験を無事突破し、ラオスに派遣されました。そんな僕が、今日、発表する側としてこの報告会に参加しているというのは、なんだか不思議な気持ちです。

正直なことを言えば、僕がこの事業へ応募するとき、「応募しても、受かるのだろうか」「もし派遣されても、ついていけるだろうか」多くの不安がよぎりました。報告会で見た参加青年の姿はあまりにもキラキラしていて、自分とはレベルの違う存在に思えたからです。それでも、勇気を出したからこそ、今僕はここにいます。

今日この場にいる参加青年たちは、もしかしたら、あなたにとって遠い存在に思えるかもしれませんが、彼らもまた、様々な不安を抱えながらも、「国際交流をしてみたい」「自分を変えたい」、そんな思いを持ってこの事業の扉を叩きました。

ぜひ今日は、参加青年に、応募に当たったの思い、派遣先での経験など、様々なことを聞いてみてください。

来年の報告会で発表しているのは、あなたかもしれません。



内閣府青年国際交流事業とは？

内閣府の青年育成プログラム。

主に18歳～30歳（日本国籍）を対象とした海外派遣事業。

現地での様々な活動を通して、青年の「異文化対応力」「コミュニケーション力」を高め、国際社会で活躍できる青年の育成を行う。

政府機関訪問



文化体験



ディスカッション



現地青年との交流



多種多様な派遣活動

異文化対応力

コミュニケーション力

国際社会で活躍できる人材

内閣府青年国際交流事業

本日の報告会は、
こちらを対象としております。

国際青年育成
交流事業

日本・中国
親善交流事業

日本・韓国
親善交流事業

東南アジア
青年の船事業

世界青年の船
事業

地域課題対応
人材育成事業
「地域コア
リーダー
プログラム」

航空機による青年海外派遣

船による青年海外派遣

事業の概要

18日間訪問国に滞在する派遣プログラム。

ディスカッション、日本文化紹介、ボランティア活動などを行う。

12日間中国に滞在する派遣プログラム。

ディスカッション、日本文化紹介、ボランティア活動などを行う。

15日間韓国に滞在する派遣プログラム。

ディスカッション、日本文化紹介、ボランティア活動などを行う。

訪問国

(H30年度)
オーストリア共和国、ラオス人民民主共和国、ラトビア共和国。
次年度は、内閣府HP参照。

中国

韓国

対象者

日本国籍を有する18歳～30歳。交流活動を円滑に行える英語力を有すること。

日本国籍を有する18歳～30歳。語学力不問。

事業の概要

50日間の船上プログラム。

ASEAN加盟の10か国の青年とともに、船上で共同生活しながら、日本及び東南アジア4か国を訪問。

40日間の船上プログラム。

世界10か国の青年とともに、船上で共同生活をしながら、日本及び世界2か国を訪問。

訪問国

(H30年度)
ブルネイ、フィリピン、タイ、ベトナム。
次年度は、内閣府HP参照。

(H30年度)
オーストラリア。
次年度は、内閣府HP参照。

対象者

日本国籍を有する18歳～30歳。交流活動を円滑に行える英語力を有すること。

事業の概要

10日間訪問国に滞在する派遣プログラム。

訪問国の先進事例を学び、課題解決のための方法を学ぶ。

訪問国

(H30年度)
ドイツ：高齢者関連活動、フィンランド：障害者関連活動、ニュージーランド：青少年関連活動

対象者

日本国籍を有する23歳～40歳。高齢者、障害者、青少年関連の社会活動経験を原則3年有すること。語学力不問。



派遣プログラム

9/8	東京（成田）発、ウィーン着
9/9	オーストリア参加青年とのウィーン市内視察
9/10	在オーストリア共和国日本国大使館表敬訪問 オーストリア赤十字社訪問
9/11	青年の学外活動を促進するwienXtra余暇教育協会にて日本文化紹介、交流
9/12	青年支援施設スペース・ラボ訪問 青年ボランティア団体のヤングカリタスとのディスカッション
9/13	小学校訪問 国際連合施設のあるUNOシティ訪問 ヤングカリタスとのディスカッション
9/14	オーストリア連邦首相府第5総局第7局訪問（国際政策や青年政策を所管） ヤングカリタスとのディスカッション ウィーン少年合唱団のコンサート鑑賞
9/15	ウィーンからグムンデンへ移動 グムンデン自然体験、地元漁師とのバーベキュー
9/16	ネイチャーガイド、地元青年とのハイキング、クッキング
9/17	グムンデンからリンツへ移動 オーストリア・ボーイスカウト、ガールガイドとの市内オリエンテーション
9/18	アルス・エレクトロニカ・センター訪問（科学技術と芸術を融合した体験型ミュージアム） ユージェントサービス訪問
9/19	リンツ市役所訪問 ブルックナー大学訪問 コワーキングスペース訪問 シュタイレグ城訪問
9/20	プライメタル・リンツ社訪問（三菱日立製鉄機械（株）と独シーメンス社の合併会社）
9/21	ウィーン・リンツに分かれてホームステイ
9/22	ホームステイ
9/23	ホームステイ終了、リンツグループはウィーンへ移動
9/24	振り返り、評価会 ウィーン発



音楽と自然があふれる国

音楽の都ウィーンをはじめ、オーストリアには音楽の聖地が数多く存在します。オーケストラやウィーン少年合唱団の素晴らしい音楽、ゴシック建築が並ぶ歴史ある街並み、そして、東西に広がるアルプスの山が作り出す雄大な自然は、多くの人々を魅了します。オーストリアは社会貢献に積極的な青年が多く、この美しい地で彼らと交流した3週間はかけがえのないものとなりました。



オーストリア赤十字社訪問

赤十字には、普段は別の仕事をしながら、ボランティアとして災害支援のための救助犬の訓練を行っている方がいます。その社会貢献意識の高さに感銘を受けました。



3日間のディスカッション

現地青年と両国の日常生活や文化、教育、政治など様々なテーマについて話し合い、交流を深めました。



在オーストリア共和国日本国大使館表敬訪問

大使のお話を聞き、海外青年との交流において大切なのは、互いの価値観を尊重し合いながらも、自分の言葉でありのままの気持ちを伝えることだと学びました。



小学校訪問

難民を受け入れるウィーンの小学校を訪問しました。お互いに異なる文化や言語を持つ子供たちが、同じ環境下で仲良く学ぶ姿に、多文化共生のあり方を学びました。



オーストリア基本情報

首都：ウィーン
面積：約8.4万km²
人口：約880万人
公用語：ドイツ語

オーストリアはこんな国。

- ・多くの難民を受け入れている。
- ・国境を接する国が多く、土地が東西に長いと、多種多様な自然的・文化的特徴がある。

事業の中で成長できた

僕はオーストリア共和国に派遣され、3つの都市を訪問しました。ウィーンは伝統的な建物が立ち並び、その壮麗さに、ヨーロッパの中で重要な役割を担ってきた都市だと実感しました。次に訪問したグムンデンは、美しい湖と山に囲まれた自然溢れる地域で、キャンプファイヤーやハイキングを通して現地の方々と交流しました。産業都市・リンツでは、アルス・エレクトロニカセンター（科学技術と芸術が融合した体験型ミュージアム）で最新のテクノロジーを体験したり、オーストリアに進出する日系企業を訪問して日本人駐在員のお話を聞いたりしました。世界を舞台に活躍するその姿を見て、自らのキャリアについて考えるようになりました。

派遣活動は多岐に渡り、オーストリア赤十字社への訪問、国連施設が集まるUNOシティ見学、政府機関や青年ボランティア団体への訪問などを通して、オーストリアの社会や文化、政治について幅広く、そして深く学ぶことができました。それはとても刺激的な経験であり、オーストリアという異文化を学んだことは、自分の価値観を振り返るきっかけとなりました。

オーストリアの人々は本当に温かく、ホストファミリーをはじめとして出会った多くの方々が、私たちが精一杯もてなしてくれることに、毎回、感動しました。中でも思い入れ深いのが、現地青年との出会いです。はじめは自信のなさや慣れないことへの戸惑いから、英語で海外の青年と関わることに積極的になれない自分がいました。しかし「一期一会かもしれない出会いを、無駄にしたくない」と奮起し、自信のなさや戸惑いを振り払って、積極的に議論に参加し、現地青年と本心で語り合ったことで深い友情を築くことができました。この関係は、生涯大切にしていきたいと思います。

僕は、オーストリア派遣団のユースリーダーを務め、はじめは、団員のために、どうしてもそれぞれが個性を發揮し、より充実した事業とできるかと考えていました。しかし事業が始まると、団員自身が自ら率先して行動し、派遣活動がより良いものになるよう尽力してくれ、団員の皆が僕を支えてくれました。高い志を持って集った仲間たちとの絆は自分にとってかけがえのないものとなりました。

この事業では、本当に多くの出会いや、学びがあります。だからこそ、参加する前は、自分についていけるだろうかと不安にもなります。しかし、この事業は、多くの出会いや学びを通して、その中で成長するプログラムです。自分を変えたい、スキルアップをしたいという方は、ぜひ応募してみてください。

オーストリア派遣団 大城 朝周より



次の段階へ

今、この文章を読んでくださっているあなたのことを想像しながら、文章を書いています。

もしかするとあなたは、事業に参加する前の私と同じように、「若い今のうちに、何かしなくちゃ」という、焦燥感を抱えているのではないのでしょうか。

その焦りは、とても前向きなものだと思います。自分や世界の現状に対して問題意識を持ち、現状を変えたいと思っている証拠だからです。この事業に参加することで、その焦りを解消する方向性を見つけることができます。

もし、あなたの「何かしなくちゃ」の内容が「国際交流をしたい」ならば、この事業はきっとあなたを満足させてくれます。私が派遣されたオーストリアでは、政府機関や現地企業、青年ボランティア団体などに訪問し、そこで働いている方々や現地の青年たちと英語で対話や議論を行いました。派遣活動の中には、難民出身の子供が多い小学校への訪問もあり、彼らがお互いの文化の違いを受け入れて協力していることに心打たれました。こうした派遣活動を通して、異文化社会におけるコミュニケーション能力が養われたとともに、多文化社会における共生のあり方を学ぶことができ、今後、国際交流において必要となる経験を得ることができました。

あなたが、「日本や世界に貢献したい」と思っているなら、この事業はそのための確実な一歩となります。この事業では、参加青年は日本青年代表として、訪問国の様々な機関に訪問し、現地の人々と交流します。そこで築いた関係が、日本とその国を結ぶ架け橋となります。また、意欲にあふれた日本の団員たちと語り合い、訪問先の文化にどっぷりと浸かることで自分や日本という国を客観視し、それぞれの課題を発見し、それを解決するための手がかりをたくさん学ぶことができます。派遣終了後も、内閣府の事業に参加した同窓生のコミュニティであるIYEOに所属し、その活動に参加することで、生涯に渡り、国際交流の最前線に立つことができます。

この事業に参加して、日本や世界を取り巻く問題に対する理解と、それを解決したいという思いが深まったことで、「何かしなくちゃ」という焦燥感が収まりました。今は具体的な行動を起こすために、事業での学びをもとに、「若い今こそ自分はどんなビジョンをもつべきか、それをどう自分の一生をかけて実現していくか」ということを考えています。あなたもきっと派遣先での経験、団員との関わりの中で人生を変える経験ができると思います。

ぜひ参加を検討してみてください。

オーストリア派遣団 荻野 史菜より





派遣プログラム

9/8	東京（成田）発、 ビエンチャン着
9/9	ラオスの山の子ども文庫基金 図書館活動訪問 実業家Inthy氏との夕食会
9/10	在ラオス日本国大使館 表敬訪問 ラオス青年同盟表敬訪問 JICA訪問、夕食会
9/11	ビエンチャン発、バクソン着 チャンパーサク教員 養成学校訪問
9/12	ラオス青年同盟 チャンパーサク支部訪問 ダオ・ファン コーヒー工場訪問
9/13	チャンパーサク大学で プレゼンテーション 小学校訪問
9/14	日系企業専用工業団地の バクセー・ジャパン日系 中小企業経済特区視察 チャンパーサク 訓練学校訪問 ゴールデンブダ視察
9/15	山本農場訪問 (日本人である山本氏が経営) ニュアンの滝視察
9/16	托鉢体験 (朝に行く僧侶へのお供えの儀式) 世界遺産 ワット・プー遺跡視察
9/17	ADDP訪問 (障がい者の自立支援団体) ラオ・ブリュワリー 株式会社視察 (ビール・飲料水メーカー)
9/18	日本・ラオス ユース リーダーズフォーラム 1日目 ラオス国立大学訪問
9/19	日本・ラオス ユース リーダーズフォーラム 2日目 ラオス国立大学で プレゼンテーション
9/20	ナムグム・ダム視察 塩田訪問
9/21	コープビジターセンター訪問 (不発弾被害者の義手や義足の製作、 リハビリサービスを行う) パトゥーサイ視察 (パリの凱旋門がモデルの建築物) ホームステイ
9/22	ホームステイ
9/23	ホームステイ 日本招へいラオス青年との パーシーセレモニー 文化交流プログラム 歓送夕食会
9/24	成果報告会 スタディビジット ビエンチャン発



心が豊かな国

ラオスは、豊かな自然に囲まれた国です。一方で、その地中には、ベトナム戦争時の不発弾が今でも残っています。

ラオス国民は仏教徒が多く、人々は、仏教に由来する思想や文化、習慣を大切にしながら生活しています。そこには、他人への思いやりや心遣いが根付いており、派遣活動を通してラオスの人々の心の豊かさを感じました。



政府機関関係者と懇談

未来の政治家や公務員を育成する政府機関である青年同盟の方々やチャンパーサク知事等、政府関係者と交流できるチャンスがあるのも、この事業の魅力です。



文化交流

身振り手振りを交えた文化交流で、言葉の違いを超えて意思疎通できることの喜びを知りました。練習を重ねたソーラン節のおかげで、派遣団の団員同士の絆も深まりました。



現地で活躍する日本人を訪問

ラオスで活躍する日本人にお会いしました。そのお話は、将来、国際社会で活躍するためのヒントが溢れており、今後の人生における指標を頂きました。



現地青年との交流

ラオス国内の教育環境は、まだまだ十分とは言えません。しかし、交流した同世代の青年たちは、明確なキャリアビジョンをもち、自国に貢献したいという強い意志を持っていました。

ラオス基本情報

首都：ビエンチャン
面積：24万km²
人口：約649万人
公用語：ラオス語

2018年は、「Visit Laos Year」。
これは、ラオス政府の観光客誘致キャンペーン。
日本でもラオスを特集したイベントが開催されました。



ヒーローがいた

ゴーレンジャー。この正義のヒーローをご存知だろうか。

僕が幼稚園のころに放送されていた戦隊ヒーローである。訪問国のラオスで、このヒーローに出会った。

ラオスの首都ビエンチャン。その外れのスラム街に日本人が運営する小さな図書館がある。

ここは子供たちのたまり場で、幅広い年代の子供たちが、遊んだり勉強したりしている。ここにそのヒーローはい

た。彼は7歳くらいで、ぼろぼろのゴーレンジャーTシャツを身にまとい、だれよりも活発に遊んでいた。彼のくたびれた服装は、その貧しさを物語っていたが、彼の小さい体からは、純粋な、生きることへの強いエネルギーが感じられた。

この図書館を運営する日本人女性は、「貧困の中にいる子供たちに、居場所をつくってあげたい。子供には夢を持つきっかけの場所が必要。」という信念があった。彼女はまさに、「ゴーレンジャー」にとってのヒーローであった。

ビエンチャンから車を1時間ほど走らせると、道路の舗装は怪しくなり、更に30分も進むと全く舗装のない凸凹道が始まる。そこで見た光景が、僕が最もラオスで心に残っている光景だ。

自然湿地を利用した水田が広がり、湿地を通る小川では大人たちが釣りに興じる。そばでは、釣れた魚の日干しを行っている人々がいて、家で放し飼う鶏の元気な鳴き声が、道路わきで遊ぶ子供たちの声とともに響いていた。

彼らは、経済指標から言えば貧困層の人々である。しかし、自然とともに農業を行い、生きるために必要な分の生き物を育て、自然との調和の中で生きている。これこそ、国連が掲げ、先進諸国が実現に向けて取り組む「持続可能な社会」ではないだろうか。グローバル化や経済発展の中で地球上から姿を消していった、昔ながらの、そして「最先端」な暮らしがラオスにはあった。

さて、この事業において訪問する東南アジアの国は、いわゆる発展途上国である。日本からの支援の歴史が長く、日本に感謝を抱き、あこがれている人が多くいる国々への派遣でもある。そこでおそらくあなたは、自分の能力が彼らの貧困や環境問題に対してあまりにも無力だということを実感するだろう。現地でビジネスや支援にあたっている日本人や、現地青年の途方もない優秀さには、逆に劣等感すら抱くかもしれない。

この事業では、国を、人々を、自然を本気で思いやり、行動を起こしているヒーローたちの世界を見せてくれる。彼らは、世界や人々のために何かしたいと思いつつ、行動を起こせずにいる僕たちに、これからどのように努力を重ね、あがいてゆかべきか正しい指針を示してくれる。

そんなヒーローに会いに行きませんか。



ラオス派遣団 日下 皓太郎より



過信と世界

僕は自分のことをそこそこ優秀な人間だと、思っていました。

実際、ここ数年、多少の失敗はありましたが、基本的にはそれなりにこなしていたと思います。大学も、学外活動も器用に立ち回り、縁があって受けたこの事業の選考試験も、受かるだろうかととても不安でしたが、ありがたいことに合格しました。なかなかできの良い人間なのではないかと自分では思っていました。でも、現実とは全然、そんなことはなかった。僕の自信は、ただの過信でしかなかったのです。

この事業を通して、ラオス派遣団や他の派遣団員に出会い、一緒に活動する中で何度も刺激を受けました。彼らは多種多様なバックグラウンドを持ち、様々な活動を行っていたり、高い語学力をもっていたり。この事業を通して幾度となく、団員たちの能力の高さに圧倒され、うらやみ、自分の未熟さに泣きそうになりました。

団員たちだけではありません。ラオスから帰国後には3日間、「国際青年交流会議」が行われ、海外からの招へい青年と英語でのディスカッションがありました。彼らとの交流を通して、自分がどれだけちっぽけな存在か、彼らと比較してどれだけレベルが低かったのかを痛いほど思い知らされました。自分と同世代の彼らが、はるかに高いレベルにいるのを感じました。

こんな話をすると、応募を考えてる皆さんは不安に思われるかもしれません。しかし、この事業は、自分の未熟さを知り、世界の広さを知り、そして成長するための事業です。自分はいけるだろうか。そう感じるその不安ごと、思い切って飛び込んでみてください。きっとその先に、あなたの成長があるはずです。

ディスカッションで思いっきり意見を出せなかった後悔や、青年に圧倒されたまま終わりがたくない、負けたくないという悔しさが、今の僕のパネになっています。

「僕はまだまだやれる」

この事業は、自分自身を過信しきっていた僕を叩き起こし、地道に一步一步精進して行こうと思わせてくれました。心からこの事業と、この事業を通して出会った人々に感謝しています。

この事業に参加して自分の見ていた世界がいかに小さかったかを知ることができました。

ラオス派遣団 長谷川 友也より





派遣プログラム

9/8	東京（成田）発、ヘルシンキ経由 リガ着
9/9	現地青年とランチ後、市内をウォークラリー
9/10	ラトビア大統領表敬訪問 駐ラトビア日本国大使表敬訪問
9/11	外務省、教育省を訪問 リガ工科大学視察 (学内のスタートアップ支援施設を視察)
9/12	ヴァイヴァリ小学校訪問 ラトビア大学訪問 (日本文化紹介)
9/13	占領博物館を視察 KGBビルを視察 (KGBビル：ソ連占領下におけるソ連関係施設) 製パン会社「ラーチ」工場視察
9/14	オーガニック・ファーム「パロアニ」視察 ラトビア投資開発公社訪問 ホストファミリーとの夕食
9/15	ホームステイ
9/16	ホストファミリーとのお別れ アルスング訪問
9/17	ユース・ハウス視察 (青少年育成のための施設。EUの制度) クルディガ訪問
9/18	ディスカッション・フォーラム 1日目 (現地青年との出会い)
9/19	ディスカッション・フォーラム 2日目 (私たち青年は自分たちの社会の問題に対して何ができるかを話し合った)
9/20	ディスカッション・フォーラム 3日目 (言葉の違いに苦しみながらも、成長できた3日間)
9/21	駐ラトビア日本国大使との昼食会 ゲッターゲームズ訪問 (若者文化を通して青年育成を行う施設)
9/22	現地青年とともにボランティア活動
9/23	ケメリ国立公園を自転車でサイクリング
9/24	ラトビア発 ヘルシンキ経由 成田着



若者文化と青年育成

ブレイクダンスなどの若者文化を通じて青年の育成を行う施設を訪問しました。慣れないダンスに最初は戸惑いましたが、直ぐに体を動かす楽しさに夢中になりました。



ラトビア大統領表敬訪問

ラトビア大統領を表敬訪問しました。大統領にお会いできるということに、ラトビア政府のこの事業にける想いの強さを感じました。外交の話題になった時、大統領の「自分の国を持つことは幸福である」という言葉が印象的でした。占領から立ち上がってきたラトビアの歴史と、今なお続く緊張状態を感じた瞬間でした。



「小さな国」

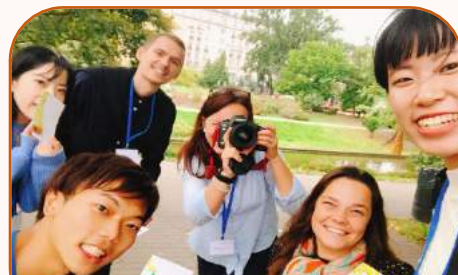
ラトビアの人々からよく耳にしたのが「ラトビアは小さな国」という言葉。人口で言えば、日本の1県の規模です。そんなラトビアの起業率は世界でも上位に入ります。起業家精神旺盛とも言えますが、それは同時に、「働く会社が少ない」ということ。だからこそラトビア青年は、スキルアップの意欲が高く、ロシアと他の欧州諸国に挟まれた地理的要因もあり多言語を話せる青年が多いです。

彼らの能力、経験値、そして自分の将来への姿勢に、多くのことを学びました。



3日間のディスカッション

ホテルに泊まり込み、ラトビア青年とお互いの国の社会問題について議論しました。議論における英語力の必要性を再確認した一方、伝えたいという思いは、英語の壁や文化の違いを超えるとわかりました。



現地青年との交流

多くのプログラムにおいてラトビア青年が同行してくれました。将来の展望について話し、ラトビア青年の自己啓発意識の高さに驚きました。

ラトビア基本情報

- 首都：リガ
- 面積：6.5万km²
(日本のおよそ1/6)
- 人口：約211万人
(長野県、岐阜県と同規模)
- 公用語：ラトビア語
- GDP：302億ドル
(1人当たり：15,403ドル、日本の約4割)
- 2018年は建国100周年！
- ラトビアは、
 - ・多言語話者が多い
 - ・起業率が高い

世界に会いに行こう

「ラトビア共和国」
と聞いて具体的なイメージが湧く方は少ないのではないのでしょうか。
では、限られた紙面ではありますが、一緒にラトビアを旅しましょう。

ここはラトビアの首都・リガ。
自然災害が「森の中の有毒なノミだけ」というラトビアでは、地震の被害がなく、
リガには今も19世紀の美しいアール・ヌーヴォー建築群が残っています。
そこであなたは驚きます。歩く人々の美形の多いこと！
ラトビアは美女の多い国として有名で、街中ではモデルのような美形に何度も出会います。
そんなラトビアの人々がこよなく愛するのが、「歌と踊り」です。
5年に1度開催される「歌と踊りの祭典」では国中から参加者が集まり、その数なんと約3万人。美しい民族衣裳に身を包み、軽快なステップで刻まれるダンス、3万人の声为重なり合う大合唱は、映像越しに見ても、見る側の心を揺さぶります。
それは、歌や踊りが美しいからだけでなく、そこに秘められた思いを感じるからかもしれません。
ラトビアには長い占領の歴史があります。ラトビアは1918年にロシアから独立を宣言しましたが、1940年には再びソ連に編入され、続く1941年にはドイツ軍の侵攻により、ラトビア国内で、ラトビア人同士が、それぞれソ連側、ドイツ側として戦いました。ラトビアがソ連から独立できたのは、1991年のことです。そんな長い占領の中で、ラトビアの人々の、ラトビア人としてのアイデンティティを守っていたのが、歌と踊りでした。
ラトビアの青年と話して驚いたのは、青年たちの「自分の人生は自分で切り開く」という意識の強さです。独立からの歴史は浅く、一人当たりGDPも日本の約4割というラトビアでは、個人を支える社会体制は十分とは言えず、自分自身でスキルを磨き、職を得ることが必要になります。またボランティアが担う役割も大きく、青年の社会問題への意識や意欲はとても高いと感じました。

派遣前、私はラトビアにどんな人々が住んでいるのか、想像もつきませんでした。
しかし、派遣活動を通して、ラトビア大統領の思いを聞き、ラトビア青年の努力を知り、美しい街並みを歩き、悲しい戦争の爪痕を学び、全身でラトビアという国に触れました。
世界には、まだまだ行ったことのない国と、そこに暮らす人々と、その営みが広がっています。その国を学び、人々と出会うことは、とても刺激的で愛おしいことだと、この事業から学びました。

あなたも、まだ見ぬ世界に会いに行きませんか。
ラトビア派遣団 谷本 有より



未来の参加者のみなさまへ

きっと、このメッセージを読んでいるあなたの心の中には、
「視野を広げたい」「新しい仲間に出会いたい」「自分を変えたい」
そんな思いがどこかにあるのではないのでしょうか？
その思いがあれば、大丈夫。あとは行動あるのみです。
そう、ここで問われるのは「行動」です。

他の参加者と手探りでベストを追求する準備期間、
大統領や大使など普段お目にかかれない方々への表敬訪問、
英語に自信がなくても一生懸命伝えあおうとした日本を含めた7か国の青年による「国際青年交流会議」などなど、
この事業では海外事情を深く知るとどまらず、「そのとき、自分はどう動くか」を試される機会が多くあります。

たとえば、私が派遣されたラトビアでは、現地青年と一緒にボランティア活動をするプログラムが組まれていました。
難病の啓発活動をするカフェのお手伝いや、国立博物館でのワークショップの補助など、さまざまな選択肢がある中で、私は、虐待など社会的リスクの高い家庭で育った子どもたちのための施設を選びました。

訪問先では、折り紙で子どもたちと一緒に遊ぶことになっていましたが、傷ついた経験をもつ子どもたちとどう関わったらよいのか、英語が使えない子どもにはどう接したらよいのか、活動前はさまざまな不安がよぎりました。訪問してみると、何人か日本に興味をもつ子どももいて、自ら手裏剣の折り方を教えてくれたりもしました。上手にできたことを褒められ、はにかむ子どもの姿は、日本の子どもたちの姿と重なりました。

中でも印象に残っているのは、私たちが日本文化について子どもたちにお話する機会をいただいた時のことです。私たちの英語も拙い上に、英語が通じない子どももいる中で、何をどう伝えたらいいか、一緒に参加した日本青年と四苦八苦しました。そんなとき、彼女は突然日本の歌を歌いだしたのです。私はとても驚いたと同時に、歌を愛するラトビアで、彼女のとった行動は、言葉を越えた「寄り添い」だと感激し、彼女の柔軟さに多くを学びました。

このプログラムでは、出会う様々な国の人や他の参加青年など、周囲から学び、自分を変えるチャンスがたくさんあります。

たしかに語学ができたほうが、ずっと海外で過ごしやすいし、世界も広げやすいでしょう。けれど、言葉はツールにすぎません。

私は、さまざまなコミュニケーションのありかたを、この事業で学びました。いろいろな強みを持った人が集まるのが、この事業の醍醐味です。

そのとき、どう動くか。自分の強みをどう活かすか。
興味を持ったあなた。ここからどうするか、もうチャレンジは始まっています。

ラトビア派遣団 堤 紘子より





派遣プログラム

10/23	東京（羽田）発、北京着 太極拳文化講座
10/24	中華全国青年連合会への表敬訪問 （中国共産党指導下の青年支援実施団体） コワーキングスペース「Kr Space」見学、起業家との交流
10/25	現地大学生と盧溝橋、中国人民抗日戦争記念館を見学 日中平和友好条約締結40周年記念フォーラムに参加
10/26	紫禁城（故宮）見学 在中国日本国大使館表敬訪問 空港に移動、西安着
10/27	秦始皇帝陵博物院（兵馬俑）見学 西安国際貿易物流パーク見学 ホームステイ
10/28	ホームステイ終了 中国伝統文化講座 高速列車で宝鷄へ
10/29	ネット産業パーク視察 東嶺コミュニティユース・ステーション視察 （青少年活動団体が集積している施設） 宝鷄文理大学にて日中青年文化交流
10/30	宝鷄市農村貧困扶助取組み視察（農村エリアの貧困問題に取り組む） 宝鷄施盤グループ工場視察
10/31	西安市内インキュベーター視察（インキュベーター：起業に関する支援を行う事業者）
11/1	成都理工大学サークル活動見学交流座談会
11/2	ジャイアントパンダ繁殖基地見学 青年の家で震災復興支援を目的とするNPO団体とディスカッション
11/3	成郡発成田着



現地青年とのディスカッション

現地青年と起業やボランティアなどの青年活動についてディスカッションを行いました。現地青年の話聞いて、中国は、日本よりも起業支援やボランティアの体制が整っていると感じました。



中華全国青年連合会表敬訪問

中華全国青年連合会は、中国共産党の指導下の団体で、本事業の中国側のカウンターパートとして私たちの訪問国活動を支えています。私たちは、本部に表敬訪問し、李柯勇副主席にお会いしました。李柯勇副主席から「日中関係は若者たちにかかっている」というお言葉を頂きました。

世界の大国

派遣先で見た中国の姿は、そのパワーを雄弁に語っていました。建築物や道路の規模の大きさ。人口の多さを背景に人海戦術で生産量を伸ばす工業分野。成長目覚ましいIT技術。その規模と勢いに圧倒されました。国が推進する「一帯一路」政策を学ぶとともに、それが現実化している姿を目の当たりにしました。
また、中国の人々との交流により、その優しさに触れました。国を超えた個人と個人の結びつきを感じました。



最先端技術視察

ビッグデータやロボット技術といった最先端技術が実際に使用されている施設や、技術研究を行なっている機関を視察しました。技術発展が目覚ましい中国の原動力となっている現場を見ることができ、その技術力の高さに息をのみました。



現地青年との交流

派遣活動中に同行してくれた中国人学生は、日本の文化や日本語に非常に詳しく、その知識に驚くと同時に、日本に興味を持ってくれることに喜びを感じました。



中国基本情報

首都：北京
面積：約960万km²
（日本の約26倍）
人口：約13.9億人
公用語：漢語（中国語）
2018年は日中平和友好条約締結40周年！

中国は、
・電子決済率が高い
・都市と地方で生活の差が激しい

変わることができた

「一带一路」とは何か、という質問に、あなたは答えることができますでしょうか。私は、答えることができませんでした、この事業に参加する前は。



事業への参加前、私は政治や経済、世界情勢について興味がありませんでした。「難しく、私には理解できない」という諦めがあったからです。派遣の事前準備として、世界情勢の勉強はしましたが、勉強するほどにその難しさを実感し、世界を学ぼうという気持ちは閉ざされたままでした。しかし、実際に中国に派遣され、政府機関を訪問し、中国の人々と交流したことで、私の意識は少しずつ変わりました。中国の領土に立ち、中国の人々と目を合わせて話をし、彼らの口から、政治の話聞く。そこには、テレビや新聞といったメディア越しではない、ありのままの中国の姿がありました。そして、政治という難しい話題の向こう側にあるのは、普通の人々の暮らしであり、自分の生活の中にも政治が根付いているのだと分かりました。

日本と中国の関係は複雑です。歴史問題、領土問題、イデオロギー、様々な壁が存在します。そんな中で、中国という国に飛び込み、中国側の目線から話を聞いたことは、とても新鮮な経験でした。また、中国の政治情勢を知ったからこそ、日本政府はどう考え、方針を立てているのか、日本の政治を知りたいと思いました。

国家の問題である以上、日中関係の対立において、「何が正しいか」というのは果てしのない問いです。中国側の意見を聞いた今だからこそ、その難しさを実感しています。私は、日本側、中国側、それぞれの立場を踏まえ、日本人という枠組みだけに囚われない、幅広い視野で物事を見ることのできる人になりたいと思います。

また、この事業を通して、自分の限界が広がりました。以前の私は、自分の意見を伝えることが苦手で、大勢の前で主張したり、何かを披露したりすることはとてもできませんでした。しかし、この事業では、中国青年とのディスカッション、日本の文化紹介のためのパフォーマンスなど、積極的に前に出て、表現することが求められます。初めは、私にできるはずがないと思っていましたが、派遣活動の中で日々出会う課題を乗り越えていくうちに、気がつけば、主体的に行動し、堂々と人前で話すことのできる自分がいました。

この事業を通じて、「できない」と最初から諦めて消極的になってしまっていた自分の殻を破り、「やってみればできる」自分を見つけることができました。

この事業に興味をもち、この文章を読んでくださっている方は、どこかで「自分を変えたい」と思っている方が多いのではないのでしょうか。この事業には、自分を変えるあらゆるチャンスが散りばめられています。

中国派遣団 二口 朝香より



新しい世界

みなさんは中国にどのような印象をお持ちでしょうか。

米中貿易戦争による世界経済の混乱、世界を牽引する情報技術など、今や中国の影響力は莫大です。また、2011年の中国のGDPが、日本を抜いて世界2位になったというニュースは、大きなインパクトをもって日本国内で報道されました。

しかし、このような数字上の話をしても、なかなかその発展について具体的なイメージをもつことは難しいのではないのでしょうか。私自身がそうでした。しかし、中国への派遣を通して、私は、私の想像を遥かに超えて発展する中国経済を目の当たりにしました。

中国の経済成長といえば、都市と地方の格差が大きく、発展しているのは、上海や深圳などの沿岸部だけで、内陸部はまだだ。派遣前、私はそんなイメージをもっていました。しかし私たちが訪れた、内陸部の西安や成都是、ヨーロッパへと続く物流の要所であり、膨大なモノと巨額のカネが行き交っていました。さらにここには、自分のアイデアをビジネスにしようと起業する人々が集い、起業家へのサポートとして、様々な支援体制が設けられていました。

このような中国の発展を紐解く上で重要になるのが、「一带一路」というフレーズです。

「一带一路」は、中国政府が推進する政策であり、かつての物流経路であるシルクロードや、インド・アフリカを経由する海路の「海上シルクロード」を基盤として、欧州やアフリカを飲み込む巨大な経済圏を構築しようという計画です。西安や成都是、「一带一路」において重要な役割を持つ都市であり、物流の拠点として発展している背景にはこの政策があります。私たちは、派遣活動で何度もこの政策に関わる施設を目にし、政府関係者から話を聞きました。一青年が、政府関係者に会い、政府の政策の根幹について学ぶことができるということは、とても有難いことであり、この事業ならではの魅力でもあります。



この事業は私にとって、驚きと感動の連続でした。正直なことを言えば、派遣前、私は中国に対して、甘く見ているところがありました。経済規模は中国が上でも、まだまだ日本の方が物流は発展し、ビジネスにおける技術は上のはずだという思いがありました。しかし、実際に中国に行き、急速に発展する中国経済の姿を自分の目で見たことで、数字だけでは理解できなかった、中国の今を理解することができました。日本を飛び出さなければ、もしかしたら生涯知ることのできなかつた世界がそこには広がっていました。

中国派遣団 勝野 将志より



派遣プログラム

9/5	東京（羽田）発、金浦着
9/6	女性家族部・歴史博物館訪問 (女性家族部：女性の地位向上に取り組む国家機関) 在大韓民国日本国大使館表敬訪問
9/7	日韓青少年交流会
9/8	日韓青少年のディスカッション
9/9	日韓交流お祭り参観 (毎年東京とソウルで開催される日韓友好のためのイベント) 青少年活動振興センター訪問
9/10	カンヌン市健康家庭多文化家族支援センター (移住者や国際結婚をした人々の支援を行う施設) ピョンチャン修練院訪問 (ロックライミングなど、自然の中で活動することができる青少年育成施設)
9/11	山林癒しプログラム参加 (山登りや瞑想、アロママッサージなどを体験) 障がい者施設訪問
9/12	希望製作所見学 (政策評価を行う民間シンクタンク) 移住背景青少年支援財団訪問 (移住者のルーツをもつ青少年の支援を行う) Nソウルタワー展望台見学
9/13	韓半島統一未来センター見学
9/14	韓国外国語大学の学生と交流 ホームステイ歓迎会
9/15	ホームステイ
9/16	徳成女子大学の学生と交流
9/17	韓国両性平等振興院のプログラムに参加 (公務員を対象とする男女平等教育、専門家育成、学生への講義を行う機関) サムスンイノベーションミュージアム見学 スウォン市伝統市場ツアー
9/18	インサドンにて韓服体験
9/19	金浦発 東京着



朝鮮半島の未来

韓国には、朝鮮半島の統一を目的として建設された韓半島統一未来センターがあります。そこには、朝鮮半島が統一された7年後の世界を体験できる施設があり、北朝鮮と韓国が統一された場合、どのような社会になるかを実際に学びました。
今まで、自分には関係がないと思っていた朝鮮半島の問題について、自分に関係のあることとして捉えるようになりました。



現地青年との交流

日韓の青年がお互いの文化を披露しました。日本で有名な曲は韓国でも知名度があり、流れた瞬間、会場の温度が上がったのがわかりました。同じ音楽を楽しめることに喜びを感じました。



韓服体験

インサドンで韓服体験をしました。艶やかな韓服に腕を通すと、韓国文化をより身近に感じ、韓服を来てソウルの街並みを歩くと、自分が韓国の景色に溶け込んだように思われ、新鮮な経験になりました。



韓半島統一未来センター

韓半島統一未来センターは、朝鮮半島の中心部に位置しており、真下に北緯38度線が通っています。センターの展望台からは北朝鮮が肉眼で確認できます。



女性家族部表敬訪問

女性家族部は、女性の地位向上、多文化家族支援、青少年の育成などの政策を行う国家機関です。韓国社会における女性の地位向上のための取り組みや多文化共生の取り組みについて学ぶことができました。



韓国基本情報

首都：ソウル
面積：約10万㎡
人口：約5127万人
公用語：韓国語

「多文化」
韓国では、国籍・宗教・人種・性別・障害の有無などからなる文化の違いを「多文化」といい、国際結婚した夫婦や外国人労働者などの「多文化家族」に対して、不平等や差別がない社会を作るための「多文化政策」を行っています。

違いを乗り越える

はじめまして。私は平成30年度日本・韓国青年親善交流事業に参加した大野理奈と申します。

皆さんがこの事業に興味を持ったのはなぜですか？

いくつかある派遣事業の中で、特に韓国派遣に参加したいと思われている皆さんは、K-POPが好きだから、韓国料理が美味しいから、韓国に行ってみたいからということが理由かもしれません。私がこの事業に応募したきっかけは、この事業に参加して韓国に対する自分自身の偏った考えを改めたいと思ったことでした。私には、韓国人はヘアスタイルやメイクアップ、ファッションスタイルなど、皆似たように見えていました。そのため、個人で話しているのに国が関係している気がして、私は派遣前、韓国人々との距離を埋めることができませんでした。しかし、これは、韓国人に対して、私が偏見を抱いていたことが原因でした。

日本で韓国について学ぶことと韓国で韓国について学ぶことは、鮮明さや吸収量が異なります。私たちは、多文化共生をテーマに、障がい者支援の施設や、韓国以外の出自を持つ青年の支援を行う施設、男女平等を推進する国家機関を訪問し、様々な面から韓国という国について学びました。この事業を通して、多文化共生には、単に国籍が違う人々が同じ社会で暮らすことのみならず、ハンディキャップの有無、育った環境の違い、性別の違いなど、あらゆる「違い」を乗り越えるという意味があるのだと知りました。この事業を通して、多文化共生とは、どんな背景があっても、どんなハンディキャップがあっても、どんな状況下でも、お互いを理解し合いながら生きていくことだと、私は考えました。そして、そうした学びから、私がつまづいた韓国人々への偏見は、日本と韓国、国という違いを乗り越えて彼らを理解しようという姿勢が、私になかったことが原因だと気がつきました。この事業を通して自分の韓国に対する偏った考えを改めるとい目標を達成することができました。

この事業は、たった15日間の短い派遣ですが、事前準備とやる気次第で非常に多くの成果を得ることができます。また、韓国で出会った友人、そして同じ派遣団の仲間とは一生付き合い合える関係になれると思います。派遣団は1人でも欠けたらバランスが取れません。韓国に興味を持つ仲間と共に真剣に韓国について学ぶことができるのは、この事業の大きな魅力です。若い今しかできないことを今、全力でやってみましょう。



韓国派遣団 大野 理奈より



近くて遠い

東京からソウルまでたった3時間。簡単に行ける韓国は、日本でも人気の旅行先です。さらに、街を見渡してみれば韓国料理店、テレビをつければ韓流ドラマやK-POPと、韓国文化は日本にも深く根をはっています。

そんな日韓の関係が「近くて遠い」と形容されるのを聞いたことはあるでしょうか。距離が「近い」ことは明らかですが、「遠い」というのは、両国の歴史的、政治的な問題を背景とした対立関係のことを意味するようです。韓流カルチャーが日本でも大きな人気を誇る今もなお、歴史を背景とする問題は対立を深めており、日韓関係は非常に複雑です。

私は、この事業で韓国を訪れる最大のメリットは、旅行では知りえない韓国を知ることができることだと思います。平成30年度の派遣では、「多文化共生」を学ぶことをテーマとして、韓国と北朝鮮の統一を推進する韓半島統一未来センターを訪れたほか、福祉関係施設などにも訪問しました。それぞれ立場やバックグラウンド、環境が違うもの同士がどのように共生していくかについて、様々な角度から学ぶとともに、そのテーマについて韓国青年とディスカッションも行いました。

「多文化共生」を考える上で、最も貴重な経験になったと思うのが、韓国青年と同じ部屋で寝食を共にしたこと。お互いが本音で、政治やお互いの国に対して思っていることを話したり、食生活から恋愛観まで、日常生活における様々なことを話したりすることで、お互いの共通点や違いを発見することができました。そうした対話を通して、お互いのことが少しずつ理解できるようになり、その結果、深い結びつきが生まれたと思います。テレビや新聞などからは見えてこない、韓国の姿がそこにはありました。

15日間の韓国滞在を経て、私は「近くて遠い」とは「近くて深い」という側面を持つのだと思いました。地理的、政治的、経済的など、様々な側面で「近い」からこそ、お互いが密接に関係しており、その関連性は「深い」です。そしてだからこそ、様々な対立が生じ、お互いにとって「遠い」存在となってしまいます。今回の派遣活動を通して、日韓両国は、私が生まれるはるか昔から深い関係を持ち、その跡が今もいんな形で残っていると感じました。「深い」からこそ、その関係性は根深く、複雑である一方、「深い」からこそ、きっと日本人、韓国人における素晴らしい結びつきもあったと思います。まだまだ知らない日韓の歴史をこれからも学んでいきたいと思いました。

韓国に興味がある方、K-POPや韓流ドラマが好きの方、国際関係に興味がある方、何か大きな経験をしてみたい方。この事業に興味のある方は、様々な思いがあるでしょう。確かなことは、この事業に参加することは、きっと素敵な経験になるということです。ぜひ応募してみてください。

韓国派遣団 荒木 孝仁より



興味はあるけれど、
事業の活動やスケジュールの
具体的なイメージが湧かない…

という皆様に向けて、

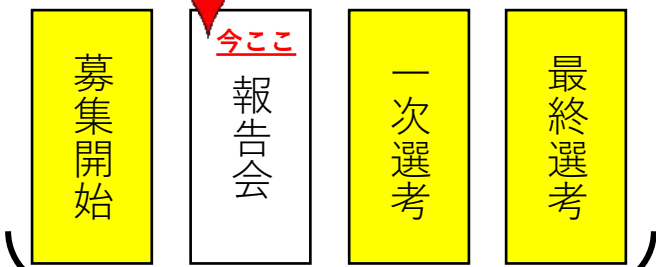
- ・どんなスケジュール？
- ・どうやったら参加できるの？
- ・費用はかかるの？
- ・事業の特徴は？
- ・活動内容は？

という部分についてご説明します。

※派遣日程、出発前・帰国後研修の日程は、
事業ごと（国際社会青年育成事業、
日本・中国青年親善交流事業、
日本・韓国青年親善交流事業）に異なります。

Q どんなスケジュール？

1月 2月 4月 7月



Q どうやったら参加できるの？

応募 一次選考 最終選考

応募する

青年国際交流

検索

応募方法は、内閣府ホームページをご覧ください。参加申込書、作文、健康診断書を各都道府県の青年国際交流主管課(室)へ提出します。

一次選考

一次選考として、都道府県又は青少年団体等が定める試験を受けます。日時・場所は試験実施者から指定があり、面接などの試験を受けます。

最終選考

一次選考を通過した場合、最終選考として内閣府による試験を受けます。最終選考では、教養試験、小論文、面接試験（国際社会青年育成事業の場合は、英語による面接試験あり）が実施されます。

私は、試験に向けて「なぜ参加したいのか」、「事業の経験をどう生かすか」という部分を自分の言葉で説明できるようにして、試験に臨みました。

平成30年度参加青年

Q 費用はかかるの？

参加費・交通費（試験及び事前研修に係るもの）など、個人負担となる費用があります。

費用の詳細は、内閣府ホームページをご覧ください。

Q 事業の特徴は？

参加者の成長に重点を置く 充実したプログラム

この事業は、「ただ派遣活動を行って終わり」ではありません。派遣前の事前研修、自主研修、帰国後の振り返りなど、参加者自身が自身の成長のために目標を立てて努力し、派遣後にそれを評価するプログラムとなっています。

P
PLAN
計画を立てる

事前研修

派遣活動に向けた準備のための研修。派遣活動の目標やそれに向けてどのような準備をするかを考える。

自主研修

自分の立てた目標達成のため、語学学習や訪問国に関する知識の習得を進める。

出発前研修

訪問国への派遣前に向けた最終調整を行う研修。

訪問国活動

政府機関訪問、現地青年との交流など、様々な活動を通して、訪問国への理解を深めるとともに、異文化社会における振舞いやコミュニケーション方法を学ぶ。

D
DO
実行する

C
CHECK
評価する

A
ACTION
改善する

帰国後研修

訪問国活動を通して、何を学んだか、どんな成果があったかを振り返り、団や個人で立てた目標の達成度を評価する。派遣活動の経験を今後どのように生かすかを考える。

事後活動

帰国後も、日本青年国際交流機構（IYEO）に所属するなど、事業との関わりは続く。事業を通してできたつながりの中で、学びの還元や新しい分野へのチャレンジを行っていく。

サポート体制 派遣活動に向けた準備や派遣期間中に、気になること、不安なことについては、訪問国との調整を行うコーディネーターや、派遣団を引率する団長、副団長に相談することができます。



日本国政府、訪問国政府が共同で作る ハイレベルなプログラム

①日本青年代表としての訪問

この事業では、政府要人や政府機関など、訪問国において重要な位置づけの組織、施設に訪問することができます。そこでは日本青年代表としての振る舞いが求められ、国際交流におけるマナーを実践できるとともに、その国の政治や経済について、実際に現場で関わる人々から生の声を聞くことができます。

②将来活躍する青年たちとの交流

この事業に参加する青年は、日本青年も、現地青年も、自己開発意識や社会参加の意欲が高いです。そんな仲間とともに派遣活動に取り組むことで、お互いに刺激を与えながら成長できます。派遣終了後も、知り合った仲間と連絡を取り合い、切磋琢磨し合える関係を築くことができます。



MONDAY, 10. SEPTEMBER
The President of Latvia meets with the participants of the Latvian-Japanese Youth Exchange Program from Japan

▲ラトビア大統領への表敬訪問。
大統領のホームページより。

訪問国活動

帰国後研修

そして

事後活動

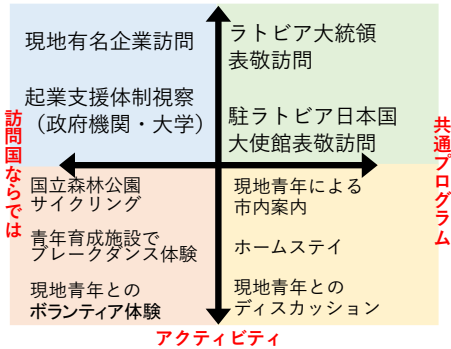
**大切なのは、帰ってきてから何をするか、
どんな人間になるか。**

この事業はきっかけです。参加青年には、この事業を通して得た経験や人脈を生かして、今後も地域、社会課題へ取り組むことや国際社会への参加が期待されます。

Q 活動の内容は？

訪問国活動は、多種多様です。 政府要人への表敬訪問、現地企業訪問、現地青年とのディスカッション、ホームステイといったプログラムのほか、**その国ならではの**様々な体験プログラムが用意されています。政府機関訪問といったフォーマルな場面もあれば、若者文化を体験するアクティビティなど、**あらゆる角度から**、訪問国について学ぶことができます。

フォーマル (平成30年度ラトビアの例)



この事業では、訪問国などからも海外青年を日本へ招へいし、日本国内で交流を行います。

国際青年育成交流事業
「国際青年交流会議」

**世界6か国から
青年を招へい!**



注) 平成30年度は、オーストリア、チリ、ドミニカ共和国、ラオス、ラトビア、ベトナムから青年が来日。

日本・中国 青年親善交流事業

中国からの招へい青年に同行し、都内案内などを行いました。中国招へい青年は、IT企業や政府機関に務めている人が多く、彼らとの会話はとても刺激的でした。東京の地価や政治情勢など、彼らの質問にしどろもどろになることも多く、自国日本についての知識不足を実感しました。



日本・韓国 青年親善交流事業

韓国からの招へい青年に同行し、都内視察や交流プログラムに参加しました。お互いの文化を紹介しあったり都内の観光地を巡ったりしました。中でも、韓国青年から、地方プログラムで訪問した日本の観光地の感想を聞いたことが印象深いです。滋賀県・近江八幡市で見た琵琶湖がとても綺麗だったそうで、韓国青年から日本の魅力的な部分について話を聞く度、自分ももっと日本について知りたいと思うようになりました。



3日間のディスカッション

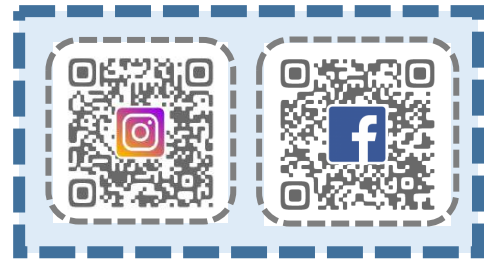
キャリア形成、メディアリテラシー、多文化共生について議論。お互いの国の現状について話合うと、その違いに驚くこともあれば、共感し合うことも。

7か国の青年が力を合わせたプレゼンテーションはアイデア豊かで、様々な意見を取り入れて、それを形にすることの大変さと楽しさを実感しました。



本音トーク 参加者に聞く

参加青年の
声発信中



参加青年個人の
感想です。

語学力や留学経験
がなければ、
受かりませんか？

私は留学経験がなく、語学力も自信がありませんでした。だからこそ、自分の強み、参加への思いをアピールできるように準備しました。参加が決まって、派遣までの準備期間中に英語勉強に取り組みました。普段は英語を使う機会がなかったのに、語学力を高める絶好の機会となりました。

日本・韓国青年親善交流事業、日本・中国青年親善交流事業では、語学力は選考の対象にはなりません。中国、韓国派遣には、通訳が同行します。

どうして
応募しようと
思ったのですか？

自分を変えたかったからです。国際機関への訪問、現地の人々との交流など、旅行ではできない経験を通して、そこから様々な学び、自分を変えるきっかけを得ることができると思いました。

自分の経験を海外青年に伝えたいと思ったからです。自分のこれまでのボランティア経験について、海外青年と共有、議論し、そこで得られた新たな気づきを、戻ってからの活動に活かしたいと思いました。

派遣中
辛いと思ったことは
ありましたか？

プライベートの時間がなかったことです。派遣中は常に集団行動、ホテルも相部屋。一人になれる時間が限られ、ストレスも溜まる中、お互いに思いやりの気持ちを大切にできたことは、今後生きる経験となりました。

対応力を求められる場面が多く、うまく立ち回れずに悔しい思いをしたことが多々ありました。しかし、そんな中でも「成長したい」と、もがいた経験が自分を成長させてくれたと思います。

派遣活動を通して
どんなことが
変わりましたか？

視野が広がりました。海外で活躍する日本人のお話を聞いたことで、様々なことにアンテナを張り、幅広い知識を身につけることが大切だと学びました。ディベートやプレゼンテーションの経験から論理的な思考力も高まったと思います。

行動力、コミュニケーション能力が高まりました。一緒に成長できる仲間、尊敬できる人々に出会ったことで、自分の能力を高めたい、新しいことにチャレンジしたいという意識が強まりました。

外国の友人は
増えますか？

増えます！ともに運動したり、課題を乗り越えることで、海外青年の様々な顔を見ることができました。彼らと一緒に笑い合ったことは、かけがえのない思い出です。今でも交流は続いています。お互いに成長して再会する日が楽しみです。

初対面でも、ためらいなく英語で話せるようになりました。特に同年代とは、キャリアプランなど熱く語り合うことも多かったです。今でも連絡を取り合い、お互いの存在が良い刺激となっています。

この事業の経験は
今後の人生で
生きると思いますか？

この事業を通して、知識の幅が広がりました。今後も、興味をもって知識を深めていきたいです。そうすることで、自分の専門分野についても、新たな視点を取り入れることができると思っています。

多くの人と出会い、コミュニティが広がりました。この事業をきっかけに様々な人との出会いがありました。出会いが連鎖し、所属するコミュニティも増えたことで、自分の意見を発信する場、意見を交わす仲間、知識をインプットする場が増えました。

終わりに

改めて、本日はご来場いただき、ありがとうございます。

本日の報告会はいかがでしたでしょうか。

私たち参加青年は、この事業を通して、様々な体験をし、価値観に触れ、それぞれの思いを抱えて日本に帰ってきました。私たちは、私たちに「世界」を見せてくれた、この事業を愛しています。

本日は、この事業の良さを皆さまにお伝えできるよう、実行委員がこの報告会のために準備をしてきました。なかなか、全てをうまく伝えることはできなかったと思います。

でも、もし、「なんかイイかも」なんて思ってくださった方がいれば、ぜひ内閣府のホームページのぞいてみてください。そこには、世界の扉を開く鍵が用意されています。

平成30年度報告会実行委員一同